

大久保に新時代の先駆けとして望まれるも
西郷の生涯に寄り添い西郷戦争に散った

村田新八



村田新八遺品保存会蔵
鹿児島県歴史資料センター黎明館保管

新八 修養の地
喜界島が
語りだす

村田新八 概略年表

- 一八三六(天保七年) 鹿児島城下の高橋家に生まれる。後に村田家に入る。
- 一八五九(安政六年) 高橋新八の名で精忠組に参加、盟主西郷に兄事し尊王の大志を抱く。
- 一八六二(文久二年) 寺田屋事件扇動の嫌疑をかけられ、西郷と共に処罰、**新八は喜界島に流される。**
(宇留満乃日記)
- 一八六四(元治二年) 赦免になり西郷とともに鹿児島へ帰る。その後西郷の最側近として薩長間を取り持つ重要な役割を担う。
- 一八六八(明治二年) 戊辰戦争に従軍。城下二番隊監軍となり功を立てる。
- 一八六九(明治三年) 鹿児島藩常備隊の砲兵隊長となる。
- 一八七一(明治四年) 上京して宮内大丞となり、岩倉大使、大久保副使らと欧米を巡遊するが、その間に宮内大丞を辞任する。
- 一八七四(明治七年) 欧米より帰国後、西郷の下野に従い鹿児島へ帰郷。私学校創立に関わり、自らは砲兵学校を監督する。
- 一八七七(明治十年) 西南戦争に従軍。二番大隊長として奮戦するが九月二十四日、城山岩崎谷で戦死。長男岩熊も熊本 of 植木で戦死する。
- 一九一三(大正三年) 復古功臣として名誉回復される。



1862(文久2年) 村田新八、喜界島に流される

『宇留満乃日記(うるまのにつき)』
村田新八が山川湊出帆から喜界島に到着するまでの航海の様様を書いた日記。

1862(文久2年)

(6月10日)
夜に山川湊にて白山丸に乗船する。

(同13日)

風待ちで滞船

(同14日)

快晴、朝未明に出帆するも無風、
波静かて船進まず。

(同17日)

快晴、南風吹くなか黒島、硫黄島
を過ぎる。

(同18日)

南風烈しく、風に翻弄されながら
屋久島の一港に入る。

**滞在中、別船にて寄港して西郷
と面会する。**

(同26日)

東風強いなか一港を出帆。

口永良部島に着船。

(同28日)

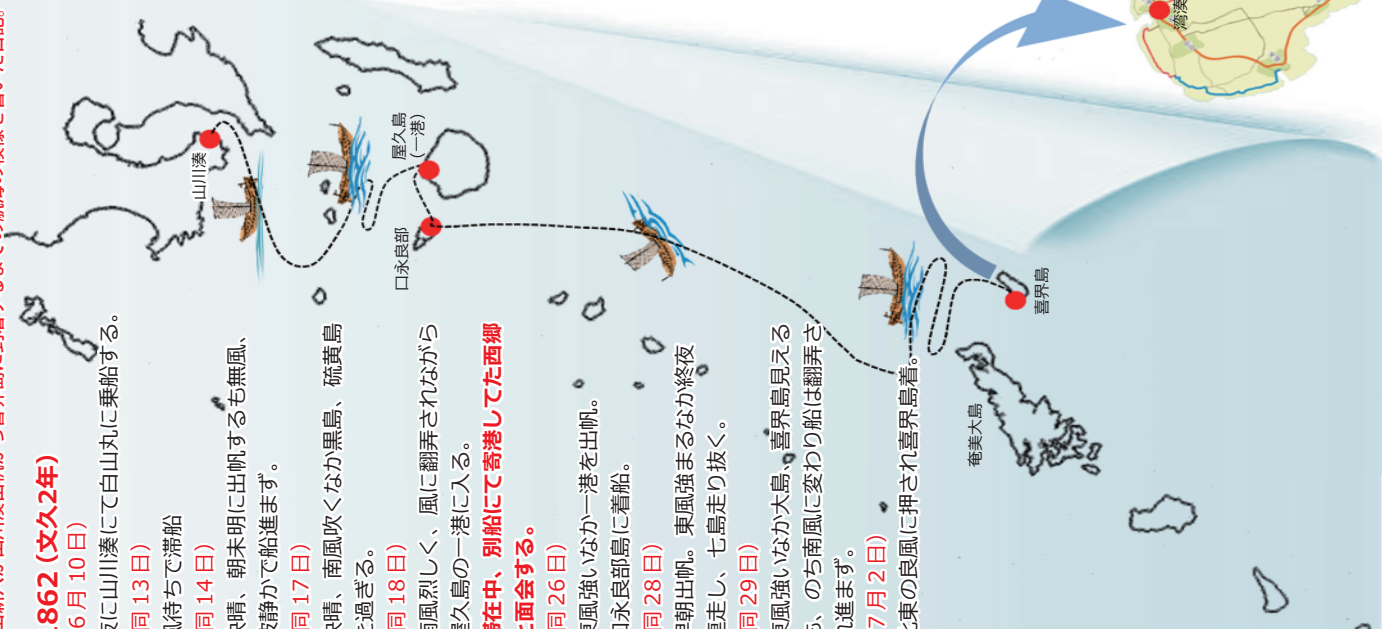
早朝出帆。東風強まるなか終夜
連走し、七島走り抜く。

(同29日)

東風強いなか大島、喜界島見える
も、のち南風に変わり船は翻弄さ
れ進まず。

(7月2日)

北東の良風に押され喜界島着。



歴史民俗資料室 (中央公民館内)



〔童女石仏〕
村田十蔵(新八養父)が在島役人時代に亡くなった娘の供養の為製作したものとされる。



〔水甕〕
大久保利生(利通父)が遠島時代にお世話になったお礼に小野津の都豊生氏へ贈ったもの。

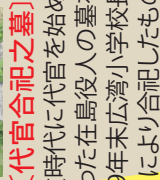


**天満宮
(高千穂神社)**
新八は、飢饉の年の豊作祈願など折ある時に訪れている。現在は諸神社が合祀されている。



〔仮屋(代官所)跡〕
藩政時代に島を統治していた役所があった所。182年間99人の代官役が勤務した。

喜界小学校



〔代官合祀之墓〕
藩政時代に代官を始め亡くなった在島役人の墓を、1939年末広湾小学校長の尽力により合祀したもの。

喜界郵便局



〔村田新八修養の碑〕
新八にとって大切な人間修養の時期であったことを偲ばせる。喜島、藤原、平岡3氏の援助と湾小学校後援会の労力により新八最後の住まいとなる喜島家(現中澤家)に建立された。その他敷地内には新八が使用した井戸や弓場跡がある。

池治方面

電気店

⇐ (県道) ⇨

中里方面

鹿兒島銀行

【喜界島での村田新八】

新八は、一八六二(文久二年)山川港から一八日を要し、七月二日に喜界島到着。

最初は代官書役の政円宅に寓居し、次に柳勇憲宅に引越し、最後に現在「修養の碑」が立つ喜島桃山宅に移り住んでいます。

暮らしぶりは比較的自由に過ごせたようで、学問や教養を授けてくれる先生、そして武術の指南役として歓迎されていたようです。

二度目の正月を迎える頃には子供たちと破魔投げを楽しんでおり、充実している様子が伺えます。

またその頃見舞われた飢饉に際し、小指のような唐いものにそら豆の葉を海水で煮たもので飢えをしのぎ、正月に一度も米の飯が廻らないという状況に、島の人と同じに耐え、豊作を祈っています。

いかつい風貌と言われながら心根の優しい人物像が伝わっています。

一方、遠島人として国元や国政の情報に飢え、沖永良部の西郷との交信を通して国政への思いが募っていたことでしょう。

一八六四(元治二年)二月二六日、赦免となった西郷を乗せた蒸気船胡蝶丸が喜界島湾村の港に現れました。事前に赦免を知らされていない新八の約一年八カ月の流刑生活は突如として終わりを迎えることになりました。

・大久保利生(利通父) 謫居地

1850年の「お由良騒動」に連座し4年余りの遠島生活を送る。

・**浜上謙翠生誕の地**
奄美の産業に貢献し、海運業に先鞭をつけた人物。新八の教えを受けたといわれる。



〔小野津集落〕



〔浜上謙翠頌徳碑〕

・前田盛秀生誕の地

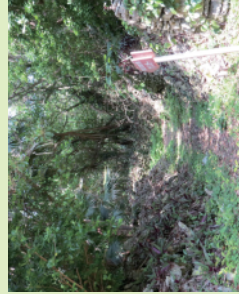
新八の教えに影響を受け西南戦争に従軍、田原坂にて戦死。享年17歳



〔盛秀の生家〕

・片倉鄭龍医師生家跡

軍医として西南戦争に従軍後、先内集落で医師開業。敷地内に町指定文化財「ウリハー(下り井戸)」がある。



〔片倉医師生家跡〕

・熊谷誠輔医師生家

軍医として西南戦争に従軍後、赤連集落で医師開業。



〔熊谷医師生家〕

